

## 認定看護師 の地域活動

〈鹿児島〉  
川内病院  
皮膚・排泄ケア認定看護師  
神菌由佳

川内病院は2011年4月に  
ストーマ外来を開設しました。  
日本オストメイト協会・川薩支

部の要望を受けたもので、地域  
で暮らすオストメイト（人工肛  
門・人工膀胱保有者）の相談に、

皮膚・排泄ケ  
ア認定看護師  
の筆者と外科



# 正しい知識・技術を地域に広め オストメイトの暮らしを支える



片側顔面けいれんに対する微小血管減圧術



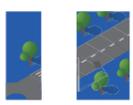
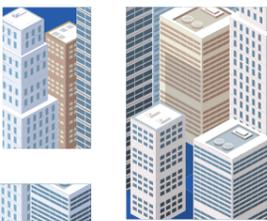
紹介患者さんは、まず鑑別診  
断を実施し治療方針を説明

介受診は約80件に上りまし  
た。  
**患者の希望に沿った治療を  
丁寧な説明で提供**  
専門外来の患者さんは、  
開頭手術が必要な人ばかり  
ではなく、投薬治療が適応  
の非定型顔面痛や、筋肉の  
緊張を和らげるボツリヌス  
治療を希望する顔面けいれ  
んの人も多くいます。  
当科では、患者さん自身  
が希望に沿った治療を選択  
できるように、診断過程、  
内科と外科、両方の治療に  
ついて、客観的で詳細な説  
明を心がけています。  
手術件数は約半年間で9  
件。全員が完治し合併症も  
なく退院しました。その中

には、痛みのため食事どころか  
しゃべることもできず、緊急入  
院して手術までの間、経営栄養  
でのし、術後、痛みが消失し  
た喜びとこれまでの苦痛につい  
てせきを切ったように話して  
くれた男性がいます。  
10年来の顔面けいれんが消え  
「もっと早く手術しておけばよ  
かったわ」と満面の笑みで帰ら  
れた高齢の女性も。術後の患者  
さんの、こうした喜びや笑顔に  
直接触れるたびにやがいを感  
じます。  
三叉神経痛や顔面けいれんは、  
患者さんにとってどの診療科に  
行けばよいのかわかりにくい疾  
患なのだ、専門外来開設で改  
めて実感しました。さらなる情  
報発信を続け、一人でも多く笑  
顔にしていきたいです。



濟生会にはたくさんの道があります。  
道はどこかの交差点で交わり、離れていきます。  
そして経路は異なっても目的地はみんな同じ。  
「笑顔」です。



和歌山病院は2020  
年7月、三叉神経痛・片  
側顔面けいれん・舌咽  
神経痛専門外来を開設しま  
した。これらは顔面や口  
腔の痛み、顔面のけいれ  
んなど、他の人では苦痛が実  
感しにくい疾患で、医師も患者  
さんの周囲の人々も症状を軽  
く見る傾向があるものです。  
しかし本人にとってその痛  
みはまさに地獄の責め苦。実  
は、微小血管減圧術という脳

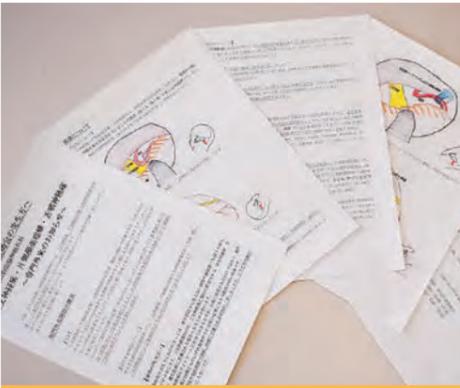
外科の開頭手術で完治する可  
能性の高い疾患ですが、患者さ  
んはもちろん脳外科医以外の医  
師にもあまり知られていません。  
そのため適切な診断・治療を受  
けていないケースも多く見られ  
ます。  
これらの疾患で困っている人

# 顔面や口腔の耐え難い痛みから 適切な専門治療で救う

積極的な情報発信で  
地域に専門外来を  
アピール

まずは専門外来の情報  
が必要となるに届くよ  
う、患者さんが最初に受  
診する診療所へ、地域連  
携室から情報を発信しま  
した。パンフレットを作  
成し、ペインクリニック・  
眼科・耳鼻咽喉科・歯科  
診療所などを中心に訪問。  
三叉神経痛の患者さんは  
虫歯と勘違いして歯科を  
受診するケースが少なく  
ないので、歯科医師会を  
通じ和歌山県下の歯科医  
に周知いただき、直接紹  
介を受けられるようにも  
しました。  
医師向けの講演会も頻  
回開催しました。患者さ  
んへの情報提供も、当院  
ホームページで発信した  
ほか、地元紙コラムの執筆、地  
域の情報誌への記事掲載、ラジ  
オ番組出演などマスコミも可能

な限り活用しました。  
これらの取り組みで、専門外  
来開設から6カ月間の新患・紹



歯科用に作成した案内パンフレット



和歌山放送のラジオ健康相談で、三叉神経痛を語る